

Society 5.0 への横幹連合の取組み — 科学技術イノベーション総合戦略2017 への提言 —

船橋 誠壽*

今後の5年間の科学技術政策の基本方針となる第5期科学技術基本計画が、2016年4月にスタートしました。この計画では、その4本柱の一つである「未来の産業創造と社会変革」に向けた具体的な施策として、世界に先駆けた「超スマート社会」の実現が掲げられ、その取組みを Society 5.0 として、サービスや事業の「システム化」、システムの高度化、複数のシステム間の連携協調が必要であり、このための共通的なプラットフォーム（超スマート社会サービスプラットフォーム）の構築に求められる取組みを推進するとされています。

サービスや事業のシステム化、その高度化や連携協調のためのシステム・オブ・システム化については、横幹連合が目指す知の統合の社会実装の形として、さらに、その基盤であるシステム科学技術の振興を含め、横幹連合が発足以来、その必要性と重要性を継続して主張してきたことです。また、超スマート社会実現のために強化すべきとして基本計画で特定された基盤技術のうち、少なくとも9分野（「プラットフォーム構築基盤技術」に関して：IoTシステム構築技術、ビッグデータ解析、AI、数理科学、「価値創出コア基盤技術」に関して：ロボット、センサ、アクチュエータ、バイオテクノロジー、ヒューマンインタフェース）は、横幹連合の会員学会の主要分野です。

ICT、バイオ、ナノの劇的な進展、さらに、これらの学問が細分化に向かうという特性を踏まえて、システム化とその学術的な深耕の重要性を主張してきた横幹連合の活動が、社会から大変に必要とされる時代に入ってきたことをあらためて認識すると同時に、この基本計画の進展に、横幹連合は大変に重要な責任を持つに至ったと捉えています。

2016年4月の横幹連合の定時総会では、総合科学技術・イノベーション会議の常勤議員である原山優子先生に、「第5期科学技術基本計画の基本構想と推進—横幹連

合への期待」と題して、特別講演をいただきました。さらに、2016年7月の横幹連合の理事会では、Society 5.0 に関して横幹連合としての取組みを検討するワーキンググループ（Society 5.0 WG）を設置することとなりました。先行11システムや個々の基盤技術について、会員学会の方々はそれぞれに取組んでおられるけれども、お互いが連携して相乗効果を創出し、Society 5.0 に貢献する施策を立案検討しようという趣旨です。

会員学会から推薦いただいた方々や理事有志の総勢33名の方が、WGに参画いただけることになりました。WGの進め方としては、基本はメールベースで行うとしていましたが、2016年9月5日に、学習院大学でWGのキックオフ会合を行いました。その場の議論のまとめを Fig. 1 に示します。さすがに、横幹連合の会員学会の皆さまでした。現状の Society 5.0 に対する評価と認識、日本としてもつべき理念、横幹連合としての取組みなど、俯瞰的、かつ、細部にも焦点を当てたすばらしい議論が交わされました。

メールでの議論を継続すると同時に、2016年11月19日には、第7回横幹連合コンファレンス（慶應義塾大学日吉キャンパス）で Society 5.0 に関するパネルセッションを開催しました。原山先生と4名の会員学会の会長の方々に登壇いただいて、これから Society 5.0 をどのようにつくってゆくの、フロアを交えて議論いただきました。

WG設置のときからの目論見ですが、WGでの議論は、2018年における Society 5.0 への取組みを方向付ける科学技術イノベーション総合戦略2017（2017年5月頃に閣議決定予定）への要望事項（提言）としてまとめることとしており、この内容が、2017年1月23日の横幹連合理事会で承認され、会員学会長に配布されました。提言文書は、横幹連合のホームページでご覧いただけますが、その概要は以下のとおりです。

*横幹連合副会長、企画・事業委員長、北陸先端科学技術大学院大学シニアプロフェッサー

基本的な認識：Society 5.0 に向けた政府の取組みは、大変な意義と世界に対する先行性を読み取ることができ

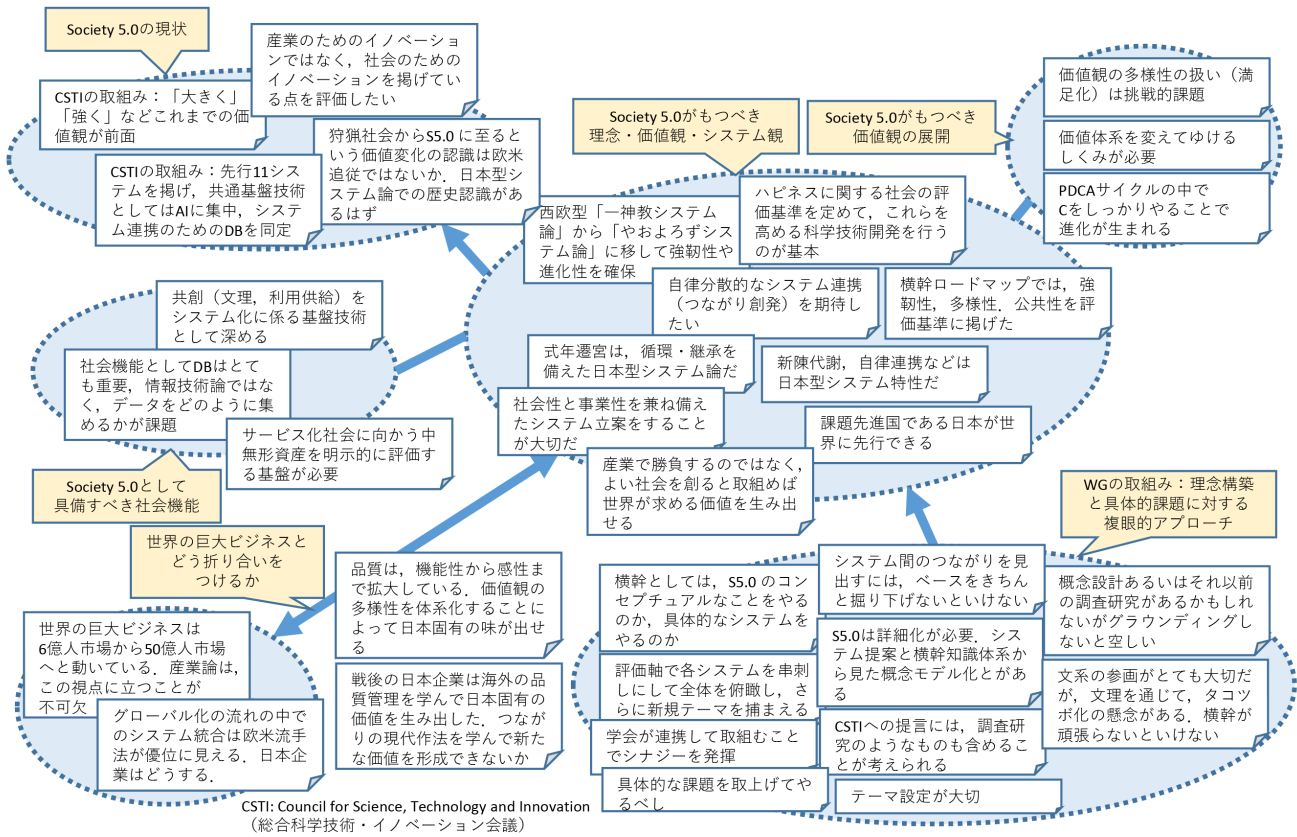


Fig. 1: Society 5.0 に対する WG キックオフ会合での議論まとめ

る。しかし、Society 5.0 の定義やその具体的な取組みにおいて、社会の本質ともいえる人々のつながりや人々の関係性については、ほとんど言及されていない。社会と科学技術との関係性を念頭に、具体的な取組みを進めることが必要である。

提言 1 先行 11 システムに関する評価指標の設定：システム開発において、評価指標の設定は不可欠である。Society 5.0 として、社会の変革を目指すにふさわしい指標づくりをしよう。

提言 2 先行 11 システムの汎化による社会サービスシステムおよびプラットフォームの概念構築：個別システム開発に止まらず、それぞれの取組みのコンバージェンスを行い、世界の人々を魅了する社会システム概念を構

築して、世界の叡智を呼び込んだ Society 5.0 の実現を目指そう。

この提言が、今後、どのように科学技術政策部署で扱われるかはわかりません。しかし、ICT の進展に伴って、日本文化に係る共生、感性等の世界が関心を寄せる概念が、システム実装に取込める機会が大変に高まっていることは事実です。Society 5.0 を契機として、日本に活力をもたらす新たなシステム観、実装方式の開拓ができればと思っております。WG のこれまでの議論をさらに発展させる形で、会員学会の皆様の参画を期待しています。